

9月の園だより

令和4年9月1日

杉並区立西荻北子供園

園長 石床 美穂子

言葉を育む豊かな体験を

園長 石床 美穂子

2学期が始まり、短時間おひさまグループも登園し、子供園は、再会した喜びと共に、全園児の子どもたちの元気な声が響いています。今年の夏は、厳しい暑さとコロナウイルス感染拡大の状況の中、それぞれのご家庭では、どのように過ごされたでしょうか。

私は、この夏にいくつか研修に参加しました。その中の一つに“言葉”に関するものがありました。

講師の東京家政大学 戸田雅美教授は、「幼児の言葉を育てる」には、幼児期の教育の基本である“主体的な遊びの中で具体的・直接的な体験をすること”と“情緒が安心できる生活である”ことが重要であると話されていました。

夏の子どものたちの生活や遊びの中にも“言葉”に関する姿がありました。

3歳児のAさんとBさんは、長時間保育で一緒に過ごす時間も長く、登園するとすぐに遊びだすことが多い二人です。夏の間は、お互いの休みがずれていてしばらく会えない日が続きました。15日ぶりに再会すると「Aちゃん！」「Bちゃん！」と門の所で名前を呼び合い満面の笑顔でしばらく顔を見合わせていました。その姿に“今日来たんだね。”“会えて嬉しいな。”“一緒に遊ぼうね。”という思いが感じられ、微笑ましく二人の姿は見ていなくてもお互いの気持ちは伝わっているのです。そういった気持ちの交流は、一学期から一緒にいるいろいろなことをして遊んで楽しかった、嬉しかったという体験があったからこそ生まれたものなのです。

5歳児の保育室では、遊びでチョコバナナやさんが始まったことをきっかけに、ヨーヨーつり、金魚すくい、かき氷や、チョコバナナや、焼きそばや、アイスや、わたあめや等のお店の場合や必要なものを作ったりし、おまつりごっこになりました。お店の準備ができると「いらっしやいませ。」「どれがいいですか。」「○○円です。」などのお店屋さんの子どもたちの張り切った声が響きました。「○○ください。」「いくらですか?」「ありがとう。」など、お店やさんとお客さんの子どもたち同士の様子取りも楽しく弾み、遊びが続きました。

お店から少し離れた机で、Cさんが恐竜を作っていました。するとDさんが「Cくん、おまつりに一緒にいこうよ。」と誘いました。Cさんは、「この恐竜を作りたいから、今は行かない。」と言い恐竜作りを続けました。少しの間考えたDさんは「じゃあ、何か買ってあげようか?」と聞きました。「うん、お願い。」とCさんが言い、Dさんは、おまつりに出かけました。そして、Dさんが「買ってきたよ!」とかき氷とアイスとチョコバナナをCさんに渡しました。「ありがとう。」と受け取るCさんにDさんも嬉しそうでした。

5歳児になると遊びの中で、言葉で伝え合い、イメージを共有しながら遊ぶ楽しさを感じていきます。また、自分の思いを伝えるだけでなく、相手の事情が分かかって、相手の気持ちを汲みながらどのように伝えていこうかと思考します。Dさんは“いつも遊んでいるCさんとおまつりにいきたくない。でも恐竜を完成させたいみたいな。何かしてあげたいな。”と考えて、「何か買ってあげようか?」と言ったのだと思います。

人間にとっての言葉は、心もちを味わったり、他者と共有したり、自分の今の在りようを意味付けることができるとあり、対話につながる大切なものです。また、言葉は、思考との関連も深いことが分かっています。園では言葉を育むために、遊びや生活の中で、“やりたい”という気持ちを子どもたちがもち、主体的・直接的な豊かな体験ができるように環境を用意したり保育者の援助を工夫したりし、保育を充実させていきます。また、子どもたちが友達や保育者との対話を楽しみながら、感じたり考えたりしたことを自由に言葉にしていくことができる関係性のある学級づくりを目指していき子どもたちの育ちにつなげていきます。

子どもたちの様子と今月のねらい

3歳児 うさぎ組

いよいよ2学期が始まります。夏季休業中のほしグループは3・4歳合同保育で過ごし、異年齢の幼児との遊びやボール遊びを喜んでいました。1学期は猛暑により戸外に出ることができず、なかなか水遊びやボール遊びをすることができなかったため、9月上旬はボール遊びや水遊びを行い、夏ならではの遊びを楽しめるようにしていきます。また、気候にに応じて、保育者と一緒に走ったり、みんなで体を動かしたりして遊ぶ楽しさも経験していきたいと思います。

<今月のねらい>

○自分のやりたい遊びを見付け、保育者や他の幼児と楽しむ。

○保育者や他の幼児と一緒に、体を動かして遊ぶことを楽しむ。

○生活のリズムを取り戻し、自分でできる身支度は自分でやってみようとする。

<家庭との連携>

夏の疲れや気温の変化で体調を崩しやすい時期です。生活リズムを整えて、早めの就寝を心がけましょう。久しぶりの登園、うさぎぐみとして久しぶりの生活となります。保育者やみんなと遊べることを楽しみにする反面、緊張しているかもしれません。あたたかく見守っていきましょう。

4歳児 くま組

今年の夏は暑い日が多く、夏季休業中に、ほしグループは、ボールや水遊びを楽しみました。9月もまだまだ暑い日が続きそうですので、熱中症や感染症に気を付けながら、ボールや水遊びを通して水に触れる心地よさを感じられるように、学級で楽しんでいきます。また、気候にに応じて、戸外で友達と一緒に思い切り走ったり、体を動かしたりする楽しさを感じられるようにしていきます。

<今月のねらい>

○身近な教材や用具に触れ、興味・関心を広げながら、自分のやりたい遊びを十分に楽しむ。

○戸外で友達と一緒に体を動かして遊ぶ心地よさを味わう。

○園での生活の仕方を思い出し、自分から取り組もうとする。

<家庭との連携>

2学期から全員保育の時間が長くなります。子供園で元気にいきいきと遊ぶために、ご家庭でも生活リズムを整えたり、睡眠時間をたっぷりとったりすることを心掛けましょう。

5歳児 そう組

夏休みが明け、2学期が始まります。夏季休業中、ほしグループの子どもたちはプール遊びやおまつりごっこをして過ごしました。9月前半はまだ暑い日が続きそうですので、引き続き水遊びやプールを楽しんでいきます。

また、9月中旬からは、ホールや涼しい時間の園庭を活用して、体を動かして遊ぶ機会もつづいていきます。そして来月の運動会に向けて、友達と一緒に体を動かす楽しさを感じたり、友達と一緒に準備を進めたりしていく<楽しさを感じる>ことができるようにしていきます。

<今月のねらい>

○自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを聞いたりしながら、友達と一緒に遊びを進める楽しさを味わい、つながりを感じる。

○友達と一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを感じ、繰り返し取り組んだり挑戦したりする。

<家庭との連携>

夏休みに入る前の終業式に、子どもたちは園長先生と3つのお約束をしていました。その中に「家のお手伝いをしよう」という約束があったのですが、夏の間にご家庭でお手伝いをする姿はありましたか？ 家庭の中でも、“自分でできること”をどんどん増やしていき、子どもたちの自信につなげていきましょう。

ほしグループ 長時間保育

プールに入ると保育者や友達と一緒にアヒルやワニ等の動物になって歩いたり、宝物や魚を見つけたりの嬉しそうに遊ぶ姿が見られました。また、暑さのため保育室で過ごす中、5歳児はクーキ屋や夏祭りなど様々なごっこ遊びを楽しんだりの好きな昆虫や恐竜を夢中になつたりしたりしました。3・4歳児は、忍者になりきって修行をしたりアイドールになりきって踊ったりして遊びました。また、3学年でホールに行っって体操をするなどして異年齢の関わりも大切にしてきました。

生活では、午睡や休息の時間はしっかりと取れるようにして体調を気にかけてながら健康に過ごせるようにしました。

9月は気候に応じて、夕保育の時間に園庭で思い切り体を動かして遊ぶ機会を作っていきます。